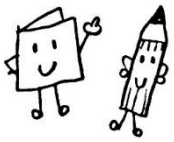
令和６年度　横田中学校研究構想・計画

◎研究主題について



ともに学ぶ

～自分の考えを伝え合う力を育む～

〈生徒の実態をふまえた主題設定〉

〇横中生徒の強み

・生徒同士や、ボランティア活動などで、世代を超えて協働的な活動を楽しみ、自己有用感を持っている生徒が多い。

・ふるさとへの愛着をもつ生徒が多く、道徳や特別活動に意欲的に取り組む。

・授業では対話をはじめ、いろいろな考えに触れる機会があると感じている生徒が多い。

〇横中生徒の弱み

・計画的に学習に取り組むことができていないと感じる生徒が約３割いる。

・自分の将来の夢や目標の実現に向けて、学習の見通しが持てないままの生徒が約３割いる。

・課題に対して、自分の考えを持ち、まとめたり発表しようとする意欲や、他の意見と比べたり参考にしながら、自分の考えを練り直すなどの姿勢が弱い

（R５年度の学校評価より分析）

	現２年生			現３年生		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語
校内	69.1	50.5	51.5	63.9	50.9	44.1
県	60.1	51.9	51.0	66.1	47.4	47.2
県差	9.0	▲1.4	0.5	▲2.2	3.5	▲3.1

・前年度に比べて県平均を上回っているものもあるが、まずは基礎的な力をつける必要がある。

（R５年度の県学力調査より）

◎R7　県道徳研究大会（益田大会）授業公開に向けて

・学年部で協力し、全員が道徳の授業に関わる。

以上のことから、本研究主題を設定した。

〇今年度の取り組み

学力向上　**（１）授業改善・・・一人一授業の実施（道徳の授業を積極的に！）**

（２）言語活動・・・言語活動を取り入れた単元構成の展開

（３）家庭学習・・・①全校での取り組み

②各教科での取り組み

③各学年の取り組み

（１）一人一授業について

・一人一授業のテーマ：

自分の考えを伝え合うための手段、授業のめあて・振り返り、家庭学習を生かした授業

・実施期間は５月～１２月。略案可。

・訪問指導は全員参観し、研究協議を行う。

〇道徳（１０月）タブレット活用の授業（９～２月）の予定

・それ以外は空いている者が授業をみて、授業の感想・意見等を授業者に伝える。

・「振り返り」の方法…「この時間、単元で自分が何がわかったか」ということを書き（確認し）、「できた！」「わかった！」という経験を積む→成功体験、自己肯定感

（２）言語活動について

各教科の目標を実現するために、言語活動を充実させる。

（3）家庭学習について

①全校での取り組み…CT（チャレンジテスト）［下記参照］の実施

②各教科での取り組み…授業と連動した家庭学習（予習・宿題）

・各教科で授業と家庭学習をつなげていく

→ タブレット・プリント配信システムの活用

・各教室のホワイトボードの利用で、宿題を可視化する

③各学年の取り組み　CT 対策、テスト前勉強会、自学・プリント課題など

※家庭との連携・・・

「研究通信」等を使って CT や家庭学習の方法について知らせ、家庭の協力を得る。

家庭学習１時間以上。

〇その他の取り組み

・朝読書（8：25～３５）の時間の充実

学級朝礼を余裕を持って始めることにより、１０分間を確保する。CT を行う場合もある。ただし、定期テスト一週間前とテスト当日は勉強をしてもよい。

図書ボランティアとの連携…学級文庫の設置、おすすめの本→図書館利用者を増やす

・早い段階からの進路指導…県立大学の見学、高校説明会は２，３年で参加、１年生の段階で高校の調査書の説明をする等

・校内研修会について

夏季休業等を利用し、研修を行う予定（特別支援教育・ハラスメント・人権・同和教育等）

・各調査の分析

復習テスト・市定着度・チャレンジテストのデータ分析を行う（研究部を中心に）

家庭学習調査の実施

・スリンプルプログラム（関わりの力を育てる）　１年生で実施（木村提案）

☆チャレンジテストについて（CT）

年１５回（３年生は年１４回）実施　　５教科（各教科３程度）

内容　漢字、英単語、計算、重要語句の一問一答など基礎的な問題。全校同じでも、学年ごとに違う問題でもよい。２５問～５０問程度（10 分間で解けるもの）

方法　課題配付（一週間前）→　テスト（朝読書の時間）　→　採点・素点入力（学年部で）→

最優秀クラスを発表（放送）　※３月に最優秀賞、優秀賞の生徒の表彰

・各テスト合格点を設定し、それ未満は再テスト　成績に入れる

・虹組の生徒も同じテストを可能であれば受ける。

・宙組、星組の生徒も可能であれば独自の問題で実施。

・CT の予定は、教職員・生徒・保護者に配付。教室掲示をする。週報にも載せてもらう。